

# 老朽原発動かすな！そのまま廃炉！

— 美浜3号現地全国集会 —

7月28日(日)「老朽原発・美浜3号動かすな！現地全国集会」に参加してきました。大阪支部からは4名が参加し、総数で約300名が参加しました。

開会あいさつは老朽原発うごかすな！実行委員会の木原さんから「原発は福島原発事故のように一度起こってしまうと現在の化学技術では制御できない。ウクライナ紛争では格好の攻撃目標になり、安全性もなく、設備管理もできていない老朽原発は再稼働させてはならない。ともに廃炉を目指し声を上げていきましょう」とあいさつがありました。



原発は人類の手に負える装置ではなく、人の命と尊厳を脅かします。それでも電力会社、政府、自民党、国民民主党、日本維新の会、連合の一部などの原発推進派はウクライナ紛争によるエネルギーひっ迫に乗り、二酸化炭素削減を口実にして、危険極まりない老朽原発の再稼働などの原発推進に躍起になっています。

今回、再稼働される美浜3号機は、運転45年を超えた老朽原発で、昨年6月23日にいっ

たん再稼働したものの、特定重大事故対処施設の設置が間に合わず、わずか3ヶ月の運転で停止を余儀なくなったものです。この短い期間に2度もトラブルを発生させており、1つは蒸気発生機中の2次冷却水が喪失した時に緊急給水するポンプに大きな圧力がかかるトラブルで、関電は「ポンプ入口にある金属製のフィルターに鉄さびが詰まったことが原因」としています。

老朽原発を全国に先駆けて動かそうと準備してきたにも拘らず、鉄さびによる目詰まりにも気づけなかった関電と原子力規制委員会のいい加減さは許されるものではありません。一方、美浜3号機と同じ加圧水型原発の高浜3、4号機、大飯3、4号機でも運転開始後、40年に至っていないにも拘らずトラブルが発生しています。



とくに約320℃、約160気圧の高温、高圧水が流れる1次冷却系配管の劣化、損傷は深刻でこれらの配管が完全破断すれば原子炉が空焚きになりメルトダウンに至る可能性があります。

次に各参加団体のあいさつでは、政府や電力会社は原発稼働

のために電力不足の可能性を大宣伝し、危機感を煽っています。しかし、電力需要量と供給量を正しく理解し、適切な節電を心がければ電力不足にはならない。電力の供給を増やすのは古い考えで需要抑制、節電をどうするのか考えていくことで電力の使用を削減すれば原発は不要になります。



また、美浜原発は活断層の巣の中にあり、基準地震動を超えることが想定されていない構造で、大地震で原子炉建屋が損傷するのは一目瞭然です。集会終了後、美浜町役場に移動し、美浜町郷市にある関西電力事業本部までデモ行進し、抗議行動をしてきました。

### 現地全国集会に参加して

原子力は、放射性物質を取り扱うことから、環境や人体に対する潜在的な危険を内包しています。一度事故が起きてしまえば福島原発事故のように周辺の土地、海は放射線に汚染され人の住めない地域になり、今の技術では元に戻すことも収束させることもできないものです。危険な原発はなくしていくべきと感じました。

(教宣部 林 涼史)

## 『関生弾圧粉碎！五一社（ごいちしゃ）の不当労働行為糾弾！東大阪市は不当労働行為企業を放置するな！』

7月30日(土)午後より東大阪市にある三ノ瀬公園で『関生弾圧粉碎！五一社の不当労働行為糾弾！東大阪市は不当労働行為企業を放置するな！7・30集会&デモ』があり、総勢約100名の仲間が結集しました。大阪支部から執行部8名、4分会10名が参加しました。



開会宣言のもと集会がスタートし、当該分会員の方から闘争報告、闘争方針、そして力強い決意表明がありました。連帯アピールでは、大阪支部から小林執行委員長と吉本副委員長から

梅南鋼材分会の争議報告、労働委員会の命令を履行しない悪徳企業に対する労働組合の行動、共闘の重要性を訴えました。そして、最後に力強い団結ガンパローで集会を締めくくり、デモへと行動を移しました。

### 五一社前で力強く抗議

デモは三ノ瀬公園から岸田堂北公園までの約1キロでしたが、沿道からデモ隊に手を振る人や車を停め応援する人、家を出てデモ隊を見つめる人など、本当にたくさんの方が見守る中、力強いシュプレヒコールをあげ、五一社の前ではより一層力強いシュプレヒコールをあげ、デモを貫徹しました。

最後に、大阪府労働委員会の命令を完全無視する企業を行政や国が放置している現状は労働



者にとって危険なことだと感じました。

大阪支部でも梅南鋼材(株)が大阪府労働委員会の命令が出たにも関わらず、命令を履行しないどころか、命令を下した労働委員会を訴えるという暴挙に出る悪徳企業もいます。

そして大和運輸分会でも、会社役員が替わったことにより、これまで築いてきた信頼関係を一方的に破壊し不誠実団交を繰り返しています。私はこのような問題を他人事ととらえるのではなく、私たち労働組合の存続に関わる問題として、今後皆さんと団結し、完全勝利するまでたたかっていければと思います。共にがんばりましょう。

(執行部 佐久原 智彦)

## 岩国に行こう！スタート集会

7月29日、エルおおさかで、岩国基地の強化を許さない「岩国・労働者反戦交流集会実行委」のスタート集会が約40名の参加で開催されました。

政府と岩国市は、反対する地元住民の民意を踏みにじり、基地強化の交付金を「アメとムチ」をもって岩国基地の強化に邁進しています。今や岩国米軍基地は極東最大級の基地となり米軍用機120機が擁しています。また、戦争の中心を担う空母の

艦載機部隊が岩国に来たということは、岩国が戦争の中心を担い、戦争に最も近い基地となったことを意味します。

集会には元岩国市議会議員の田村順玄さんからビデオメッセージがあり、現地の詳しい状況を報告されました。

岩国は、横須賀、佐世保との軍事トライアングルの要となっており、世界規模で見ても戦略的に極めて重要な基地となっています。沖縄だけでなく米軍の

世界規模での海外展開の中で岩国基地の位置づけが飛躍的に高まっています。

2006年の住民投票で8割以上が、米軍受け入れ反対の意志が示されました。その声を繋ぐこと、戦争に加担させないために、岩国に集まり反戦の声を上げ続けることが重要です。階級的労働運動を職場や地域、全国でたたかう労働者たちが、岩国反基地闘争の重大な情勢に立ち向かい、現地の人たちと共闘するために11月26日、27日に開催される「岩国・労働者反戦交流集会」に結集しましょう。

(副委員長 陣内 恒治)